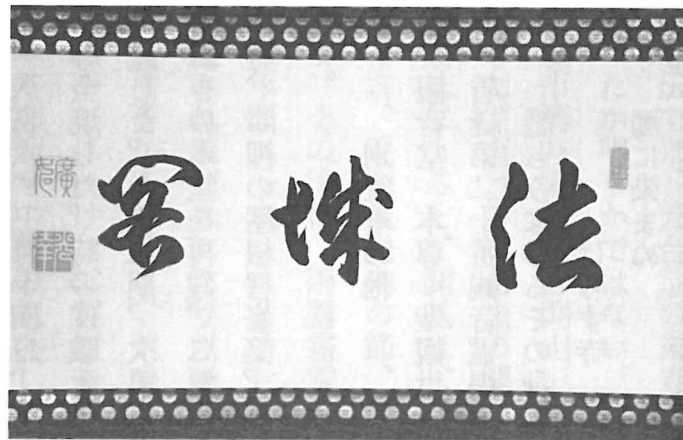


3、西谷山 通傳寺 平田市本庄町五四一番地

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

現任職 西谷啓翠 先任職 西谷義啓



慶應三年浄土真宗本願寺派広如上人書

当山の開基は、祐斎法師であるといわれ、六世了圓法師までは、天台宗であったと云い伝えている。この時代のことは、中途における堂宇の移転、火災による焼失等で判然としないが、当山の寺伝、及び久多美村誌を照合すると、当山はもと久多見村字西谷、要害平といわれた山頂に、玖潭神社、長寿寺（現久多見町）とともに禅日寺と号して建立されていたが、明応五年（一四九六）秋の大火災により、堂宇、社殿、尽く焼失し、それぞれが現在地に移転された。雲陽誌によると、大永年中【（一五二一〜一五二七）平田市誌によると大永元年（一五二一）】の草創なり、とある。七世圓智法師は、深く念佛のみ教えに帰依して改宗、寛文二年（一六六二）浄土真宗本願寺派に所属して、西谷山通傳寺と改号し、元禄九年（一六九六）に他界している。下って、十世慈溪法

師の時宝曆二年（一七五二）在職若年のため、先住義雲法師の支援を得て、梵鐘と喚鐘が吊鐘された。現在の本堂は、十二世義超法師文化十三年（一八一六）歿が再建したものである。これ以後、続く歴代の法師により、寺域は、次々と整備され、寺院として立派な形態をととのえた。先々住職敏雄法師は、本堂の屋根瓦の敷替を手始めに、戦後になって逸早く応徴により空堂となっていた鐘楼に、梵鐘の再鑄造を成し遂げた。

また昭和三十三年（一九五八）に山門を新たに建立した。後継した先住義啓法師は、病弱ではあったが、病をおして、平成三年には鐘楼堂の再建、再度の本堂の屋根敷替工事、造園等がなされ、先年逝去、現住に引きつがれ、現住は若年ながら教化活動に専念中。ここに至って、一山の面目は、一新されている。

別堂その他

● 鐘楼堂一字

本堂内陣 堀江友聲の壁画極彩色の蓮花の一部残存す。

